

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名: Berkeley Summer Sessions)

所属学部/研究科・学年(留学時): 工学系研究科 M2

留学先大学・学部/研究科等: UC Berkeley

留学期間: 2012 年 7 月 ~ 2012 年 8 月

卒業・修了後の就職希望先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 **5.民間企業**
6.起業 7.その他()

1. 留学先大学の概要

UC Berkeley はサンフランシスコに近いカリフォルニア州バークレーにある。Cal の愛称で親しまれ、全米でも屈指の名門校である。36 の学部からなり、National Research Council の調べによると、そのうち 35 の学部はアメリカでトップ 10 内にランクインしている。スポーツに力を入れており、今年のロンドンオリンピック選手を何人も輩出しており、金メダルをとった人までいる。

2. 留学の動機

語学力に自信がないので、語学力の向上。就職後に海外の大学院で学ぶことも選択肢の一つとして考えており、海外の大学で学ぶことの魅力を実際に体験したかったら。

3. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

締め切りをきちんと確認すること。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

なし

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

損保ジャパンの off に加入

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

なし

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

英語の Podcast をランニング中に聞いていたくらい

⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

だいたい現地で調達できる。ドライヤーを持っていったほうがよかった。

4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舍の様子、見つけた方法など)

I House という留学生向けの寮

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

気候は大変良く毎日晴れていた。夏なのにちょっと寒いと感じるような気温。大学周辺は閑静な住宅街という雰囲気。地下鉄の駅から大学は近い。学生は学校周辺のバスをタダで載れる。サンフランシスコまで行くバスも乗れた。食事は寮の食事を基本食べおいしかった。お金は持っていった現金とクレジットカードで足りた。たいていのところでクレジットカードが使える。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

治安はいい方だと思う。夜は危険らしいので大学がタダで door to door で送り迎えするサービスをしている。健康だったので医療関係はよくわからない。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

トータルで 50 万円くらい ペイエリアは家賃が高い

⑤奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額など)

0 円

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

食べ物がおいしく、太ってきたので 10 ドルで会員になれる校内のジムで運動した。御殿下と比較して規模の大きさやアクティビティの種類、営業時間の長さとして勝っていた。週末はサンフランシスコやラスベガスを観光した。

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

American culture through the media

Local Food Movements vs. The Food Industry

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

授業は教師が用意した映像等の資料に基づきディスカッションすることが主だった。Bspac というサイトでシラバスや授業資料を見ることができたり、教師と連絡できたりするのでとても便利だった。

③履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

それぞれ、3時間ずつ週2回の授業があった。予習復習等も授業時間と同じくらい必要だった。

④学習・研究面でのアドバイス

日本の授業スタイルとかなり異なる。日本では間違ったことを言うことや、簡単な質問をしづらい雰囲気がある。そういうことを恐れずに積極的に授業で発言するとよいと思う。

⑤語学面での苦労・アドバイス等

自分はかなり speaking が苦手で言いたいことを表現するのが難しかった。日本の英語教育はもっと speaking に力を

入れるべきだと思う。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

アメリカの大学はビジネス色が濃い。貴重な収入源の一環として見ているために、サポートは整っていると思う。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC環境等)

構内でwifiが使える。施設はかなり充実している。

7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

私がとったクラスは中国人、韓国人がほとんどで日本人はいなかった。彼らは大学1～2年年生がほとんどであったが、語学力のレベルは高く驚いた。また、プレゼンをする機会があったが、音楽と画像を駆使したすごいプレゼンテーションをする人がいてITリテラシーの高さに驚いた。広い視点で考えることができた。ちょうどトーマスフリードマンのフラット化する世界という本をよんでいたが、それを実際に肌で感じる事が出来た。

②留学後の予定

大学院を卒業したら、外資系の会社でコンサルタントとして働く予定である。今回の留学の予定で UC Berkeley の Business school である HASS に留学されている方と交流したり、information session に参加したりしたことから、MBA への関心が高まり、いつか留学したいと思った。就職すると英語の勉強はあまりできないみたいなので今から勉強を開始したいと思った。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

留学をする日本人は各国と比較して本当に少ないと思います。語学力の低さもあるかもしれませんが、実際に行ってみて語学力の低さを痛感したり、知識がなくてもなんとか伝えようとする精神が学べたりすると思います。日本人は優秀ですが、やはり全体的に積極性に欠けるとっており、この先の将来が心配です。こういった危機感を海外に出て感じてきてほしいです。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

特になし。UC Berkeley の summer session のホームページが充実していたので。

③その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学 留学プログラム報告書 (プログラム名: Berkeley Summer Sessions)

所属学部/研究科・学年(留学時): 工学部3年

留学先大学・学部/研究科等: UCB

留学期間: 2012年 7月 ~ 2012年 8月

卒業後の就職希望先: ①.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体 ⑤.民間企業
6.起業 7.その他()

1. 留学先大学の概要

カリフォルニア大学バークレー校。アメリカ西海岸に位置し、サンフランシスコからはBARTで30分程度。カリフォルニアの州立大学であり、世界でも名の知れた名門校。

2. 留学の動機

学部卒業後海外の大学院への進学や海外での就職を考えており、学部3年のうちに短期の留学を経験しておきたかったため。また、東京大学での専門である化学や生物とは別に平和構築にも興味があり、多様なバックグラウンドを持つ学生とともにこの分野について学びたかったため。

3. 留学の準備

①留学先大学への入学手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

手続きに際しては、締め切りや必要書類などをきちんと確認することが必要です。特に、ビザやI20などの申請にも留学先大学への登録が必要となるので、とにかく早めに申請した方が良いです。コース選択では、登録後の変更がややこしいのでじっくり考えた上で登録することをお勧めします。実際、コースの変更を事前にしましたが、手続きに少し時間がかかり、渡航や登録に必要な書類をきちんと揃えられるか不安になりました。

②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

とにかく早めに申請を済ませましょう。まず大使館のホームページに行き必要な手続きを確認し、VISA申請費の支払、DS160の登録、面接の予約をしました。分からないことがあれば大使館員とチャットして問い合わせることが出来ます。実際、私はI-20の発給に時間がかかり、VISA申請時にその番号を記入できないという問題がありましたが、その際の対処法などを教えて頂きました。尚、ビザの種類はF1ビザでした。

③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

特に何もありませんでした。

④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

生協のトラベルセンターに行き資料をもらい、オンラインで申し込みました。

⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

学科長に留学プログラムの内容を資料を用いて説明し、許可をもらいました。その後、試験を受けることが出来ない科目の担当教員にメールをし、振替試験やレポートなどの処置をとって頂きました。

⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

工学部主催の IFL や TEDee などの活動に参加して外国人と話す機会を利用したり、日頃からリスニングの練習をしたりして学習しました。

⑦日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

寮に滞在する場合は、どのような設備を用意してもらえるのか、寝具やドライヤーなどは持参する必要があるのかきちんと確認しておいた方が良いでしょう。また、大学構内や café では wifi を無料で使用できるので、パソコンやスマートフォンを持って行くと便利です。

4. 留学生活について

①住居(住居の種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

3 週間のプログラムだったので大学公式の寮には早めに申請することが出来なかったため、どのような選択肢があるのか大学の housing office に問い合わせました。紹介して頂いた個人経営の寮にたくさんメールで問い合わせ、そのうちの一つに滞在しました。Berkeley の学生の友達ができ、情報交換も出来てとてもよかったです。

②生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

例年になく気温の低い夏であったため、とても寒かったです。特に昼夜の寒暖の差が激しく、海沿いの観光地などは風も強いです。秋・冬用の防寒具を持って行くと良いと思います。交通機関は、ID カードがあると Berkeley ではバスが無料で乗れ、またサンフランシスコ市内では割引もあります(ドライバーにより運賃が異なる;)。サンフランシスコに行く際には、バスでは時間がかかるので BART を主に利用しましたが、市内ではミニメトロやミニバス、ケーブルカーなど様々な交通機関があり便利でした。

③危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

キャンパスの南側、駅周辺は治安が悪いので、日没後(8時半以降)は特に注意が必要です。People's park の周辺はかなり危ない区域なので近寄らない方がいいです。北側の地区は比較的裕福な人が住んでおり、夜でも鍵をかけなくて大丈夫なほどでした。体調面では、あまり夜更かしをせずきちんと睡眠を取ることを心がけました。

④留学に要した費用について(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空費 15万円程度、授業料など大学への支払い \$1930 (Unit3)、教科書 ¥3700、家賃 \$700、食費・交通費・娯楽費合わせて 6万円程度

⑤奨学金(支給していた場合は、支給機関・支給額など)

Session への登録時期が遅かったため申請しませんでした。

⑥学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末や長期休暇の過ごし方など)

5. 学習・研究について

①履修した授業科目のリスト(そのうち、帰国後東京大学で単位認定の申請を行ったものに●をつけてください。)

Peace&Conflict Study

②留学中の学習・研究の概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている授業等)

30 人程度の International なクラスで、mediation についての講義を受けました。授業は生徒・教員間でのやりとりが多

く、ディスカッションやプレゼンテーションが多くありました。日本とは違い授業への貢献度が評価されるので、積極的な発言を心がけました。テストはなく、最終週に A4 用紙8枚程度のレポートを提出しました。

③履修科目・単位数、週あたりの学習・研究時間(授業時間・授業以外の学習時間)など

週4回、unit3、午前9時から午後4時まで、お昼休みは1時間でした。宿題は、A4 半分程度の簡単な journal を毎日提出することだけでした。

④学習・研究面でのアドバイス

英語の聞き取りと授業への積極的な参加が大切でした。Non-native の学生も多かったため、言語による disadvantage が最小になるよう配慮がされましたが、それでも英語が堪能な学生の発言がなかなか聞き取れず大変でした。分からないことは周りの友達や教員に聞くなどして対応することが必要です。

⑤語学面での苦勞・アドバイス等

ヨーロッパ系のなまりが特に聞き取りづらく、ディスカッションなどで苦勞しました。英語に自信がない場合は先に教員に告げ、配慮してもらおうと気持ち的にも楽です。

6. 留学先大学の環境について

①留学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

教員が語学面で不都合がないように平易な単語を用いたりなど配慮してくれました。また、住居探しや履修登録、ID カードのクレジットなど、様々な面で大学の各種機関に問い合わせなどをし、お世話になりました。返信には少し時間がかかる場合もありますが、分からないことはメールや電話で尋ねると良いです。

②大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館は遅くまで開いており、帰る際にはシャトルバスなども利用できる所以安全です。Wifi がいろいろな場所で利用できるのがとても便利でした。食事は telegraph ave,の方にお店がたくさんあり、大学内にもカフェテリアがいくつかあるので便利でした。

7. 留学を振り返って

①留学の意義、留学を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

クラスで積極的に発言する度胸が着いたこと、たくさんの友達と知り合いになり文化の違いを学んだこと、英語力が向上したこと、手続きなどをすべて自分で行ったことで要領を得たこと。

授業内容に関しては、日常生活での人と人との衝突や社会問題・国家間の衝突など、様々な問題に取り組みました。他の学生や教員とともに考えることでより深い学びを得ることができました。

②留学後の予定

学部卒業後は、大学院への進学か企業への文系就職、海外への留学など、様々な選択を考えています。

③今後留学を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

海外への留学は単なる専門知識だけでなく、様々な学びを与えてくれます。

8. その他

①準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

③その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。